

喧嘩鴛鴦（1956）

メディア 映画
ジャンル 時代劇
製作国 日本
色彩 B&W
時間 82分
初公開日 1956/05/25

【解説】
東海道五十三次を舞台に、青年剣士が次から次へとトラブルに巻き込まれていく様子を、面白おかしく描いた明朗時代劇。「怪盗と判官」の小国英雄のオリジナル脚本を「浅草の灯」の田坂勝彦が監督した。
保科新八郎は叔父から預かった手紙を携え江戸へ向かう途中、橋のたもとにいた易者から「いろは四十八人の容易ならざる女難が行く手に待っている」と告げられる。橋からはさっそく新八郎に首っ丈の二人の娘が現れた。柳生大和守への密書を持って三条大橋を出発した浪路は、神社の境内で新八郎に密書を入れた簪を託し命を落としてしまう。密書を狙う男たちに追われる羽目になった新八郎は、易者とともに江戸を目指すことに。さらに正体不明の女や謎の集団が二人を追いつつ。

【クレジット】
監督 田坂勝彦
製作 武田一義
企画 浅井昭三郎
山崎昭郎
脚本 小国英雄 Hideo Oguni
撮影 武田千吉郎
美術 内藤昭
音楽 長津義司
出演 市川雷蔵 保科新八郎
瑳峨三智子 園姫
阿井美千子 おけい
小町瑠美子
大河内伝次郎 頭天堂
江島みどり 朱美
浜世津子 浪路
ミヤコ蝶々 Miyako Chocho 蝶子